

先輩職員に インタビューしてみました

※所属名は、令和4年4月時点のものです



府立中央図書館 調査相談課
村田 幸佑
(R2.4 入庁、副主査)



“質問力”が 業務を円滑に進めるカギです

日々寄せられる利用者からの質問に対し、その答えが載っている資料を的確に探し出し提供するのが、図書館司書の主な業務。利用者の質問の意図を明確にするためにも、わからないことを周りの仲間に聞くときにも、「質問力」はとても大切です。そういったことが当たり前ができるよう、日々精進中です。

この仕事を選んだきっかけ

「本と図書館が好きだから」というのが一番ですが、せっかくなら人の助けになる仕事がしたいなと思ったことも動機の1つ。利用者からお叱りを受けることもあります。司書の仕事は感謝される機会の多い仕事だと思います。

この仕事にやりがいを感じた瞬間

探している資料や情報が見つかった時、「ありがとう」と言ってもらえるとやりがいを感じます。もっとたくさんの利用者にもそう言ってもらえるよう仕事に取り組んでいます。

働く「前」と「後」で感じた ギャップ

カウンターでの返却業務と書架整理が業務の中心だと思っていたのですが、当課ではレファレンス対応が中心なのが意外でした。

“学びに終わりはない”ことを日々実感しています

図書館司書は「学び続けようとする姿勢」が必要だと思います。たとえば、おはなし会をする際も、わらべうたや手遊び等、様々なことを覚えた分だけできることの幅が広がり、より楽しくできます。ベテランの先輩職員たちも、積極的に研修に通われており、学びに終わりはないと日々感じています。

大阪府立図書館で働こうと思ったきっかけ

「日本の公共図書館で一番本を所蔵している」府立図書館では、難しい調べ事でも、自分の力次第で見つけられるかもしれないと思い、ワクワクしたからです。

この仕事にやりがいを感じた瞬間

図書館には「タイトルを忘れた本を探してほしい」と相談に来られる方も多いのですが、人の記憶は曖昧で、見つけるのはなかなか難しいものです。それでも、相手方のお話を丁寧に聞き、同僚と分担して調べ、利用者の方の大切な思い出の本にたどり着けたときは、感無量です。

図書館司書は、こんなこともしているんです

「図書館司書ってカウンターに座っている人でしょ?」とよく言われますが、実はそれだけではありません。必要な本を選んで購入する他、府立図書館では府内の市町村図書館向けに本を貸したり、図書館職員や学校司書を対象に研修をしたりと、図書館運営のサポートもしています。



府立中央図書館 読書支援課
白石 華菜恵
(H30.4 入庁、副主査)



教えて！



Q. 入庁前にやっておけばよかったことはありますか？

A. (村田) 分野に縛られず、もっと色々な本を読んでおけば、大いに業務にも役立てられたのに…、と思うときがあります。

(白石) 大阪府には、様々な国にルーツがある方が住んでいて、子育て中の方が中国語や韓国語、ベトナム語などの絵本を探しに来られることも多いです。そのため、英語だけではなく、その他の言語も、あいさつや、本のタイトルを読める程度には学んでおけばよかったと思っています。



文化財保護課
調査事業グループ
大澤 嶺
(H31.4 入庁、副主査)



考古学技師職



府民向け 現地説明会の様子[宮園遺跡(堺市)]

府内の埋蔵文化財を守っているのは、私たちです!!

私の主な業務は、埋蔵文化財の発掘調査と調査報告書の作成です。具体的には、事業者との調整から始まり、発掘調査の監督員として、現場での指揮、掘削、写真撮影、図面作成を行います。調査後は遺物整理や成果をとりまとめた発掘調査報告書を刊行し、開発により破壊される埋蔵文化財の記録保存を行っています。

府内の埋蔵文化財を保存し、府民の方々にいかに還元できるかは、我々の仕事にかかっているとんでも過言ではありません!

この仕事を選んだきっかけ

専攻していた学問が考古学だったこともあり、知識と経験が活用できる考古学技師職を志すようになりました。

大学1回生の頃、大阪府下の自治体で非常勤職員として発掘調査に携わり、その後も府下の発掘調査を中心に参加する中で、大阪府庁で働きたいと思うようになりました。

この仕事をするうえで必要だと思うもの

大学での研究はもちろんですが、自身の研究分野以外の知識(特に古墳時代や中世の土器)も幅広くもつことが必要です。また、行政や大学による発掘調査に積極的に参加し、経験を積んでおくことはオススメです。発掘調査に参加したいと思った方は、まずは大学の指導教官に相談してみてくださいね!

大阪府はここが違う!

府の文化財保護課には多くの考古学専門職員が所属しており、業務の役割分担がされています。残業は担当業務や季節により多少ありますが、ワーク・ライフ・バランスを実現する仕事環境が比較的整っています。

“大阪初”の世界遺産に携わる貴重な経験を 共に



文化財保護課
保存管理グループ
飯塚 信幸
(R2.4 入庁、技師)



考古学技師職

私は、令和元年7月6日に大阪で初めて世界遺産に登録された「百舌鳥・古市古墳群」の管理や魅力発信に関わる仕事に従事しています。考古学技師職の採用は、全国各地の都道府県・市町村で行われていますが、世界遺産に携わることのできる自治体はそれほど多くはないと思います。

この仕事にやりがいを感じた瞬間

古墳群の魅力伝える講演会などで、受講者の方からご好評の声をいただいたときや、自分が作成した PR ビデオや冊子が形になったとき等に、やりがいを感じます。また、世界遺産は登録後の管理も非常に大切で、ICOMOS や UNESCO とやりとりする際には、緊張感や充実感があります。

この仕事をするうえで必要だと思うもの

考古学、特に古墳時代に関する知識はもちろん必要ですが、それを一般の方や子どもにもわかりやすくかみくだいて解説できる力が必要だと思います。



文化財保護課
調査管理グループ
河原 秋桜
(R3.4 入庁、技師)



考古学技師職

“文化財を通じた”大阪府の魅力を日々発信中です!

考古学技師職は、府内の貴重な文化財の掘り起こしや保存活用に取り組むとともに、文化財を通して、大阪府の魅力向上に取り組んでいます。

「埋蔵文化財に関する業務」と一口に言っても、発掘調査をするだけではありません。

私は現在、出土資料の活用や貸出、それらを収納する収蔵庫の整理を主に担当しています。その中で、ミニ展示の企画や解説パネル等の作成、小学校へのお出前授業等を行いながら、出土資料の紹介や、その魅力を発信しています。

この仕事にやりがいを感じた瞬間

自分が企画した展示や資料を貸し出した博物館の展示を見た府民の方が、「自分が住んでいるところの近くで、こういうものが出ているんだ」と、興味関心をもっていただけたとき、やりがいを感じます。

府庁に入って良かったこと

埋蔵文化財や考古学に関する技術職の中でも、大阪府は比較的女性職員の数が多く、男女関係なく活躍の機会があります。

教えて!



Q. 入庁前にやっておけばよかったことはありますか？

A. (大澤) 行政の発掘現場でアルバイトをして、発掘調査の進め方などを見ておけばよかったなって思います。

(飯塚) 自分の研究テーマだけではなく、色々な時代の遺跡や遺物の勉強を、広くしておけばよかったなって思います。ほかにも、古墳時代の須恵器や土師器、中世の土器について、変遷や時期がわかる資料を集めておくと、役に立ちますよ。

(河原) 府内の史跡や資料について、改めて現地で確認し、現状や問題点等を考える機会をつくっておくと、仕事でも役立つのではないかなと、思います。



↑ 弥生文化博物館での展示の様子(水差し) ↑